

地域を再発見する子どもたち

ー 地域の史跡文禄堤の「新聞づくり」を通してー

岡本健（守口市立守口小学校）

1 はじめに

2020年度より実施されている小学校の学習指導要領では、育成を目指す資質・能力において三つの柱が示されている¹。とりわけ、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の育成に向けてはこれまでの実践をもとに、今まで行われてきた実践を丁寧に確認、発展させ新たな実践を作る必要に迫られている。子どもにとって最も身近な社会は地域である。よって地域に主体的に関わる実践を通して、これらの資質を備えていく事が期待される。

NIE のとりくみにおいては、中によって行われた中学生による地域のミニコミ紙（「新聞 野村」）の発行では、新聞をつくるまでの導入段階を、教室で行い、その後に地域への取材、発行、配達までを子どもが行うことで地域に深く関わり、地域をつくりかえる可能性につなげようとした²。

この実践のように「新聞づくり」を通じて子どもたちは地域と深く関わる必要性に迫られる。また取材として地域の人と出会い、地域を学びの観点を持って歩くことは、普段は認識しない地域の違った一面を再発見することにつながる。これらの実践で得た学びが、自分の人生や社会に生かそうとする事につながるかを本実践を通して考察していく。

2 研究の目的

守口小学校校区には、「文禄堤」という豊臣秀吉の命によって 1596 年に築かれた旧淀川の堤防が史跡として残されている。現在の淀川は、付け替えにより北に移動したため堤防としての機能は有していないが、3 年生で地域学習をする中で「文禄堤」という言葉を知り、実際に歩き観察している。

ただ、子どもたちは、この堤防について南に向かって歩く際の坂道という印象が強く、なぜ残しているのかに疑問を持つ者もいる。都市計画において、道路を敷設する際に幾度となく撤去しようとした経緯もある。実際、全長約 27 km もあった「文禄堤」だが他の地域ではすでに撤去されており、現在では、一部が守口市に残っているという状況である。そのためこの「文禄堤」を地域の振興に活かそうと保存、整備に努力する人々が地域で活動が続けている。

そこで今回は、まず新聞づくりの方法について、専門家の力も借り、ていねいに子どもたちに伝え、新聞のメディアとしての特徴を理解できるようにする。その後これらの活動に携わる地域の人々へ取材し、新聞づくりを通じて、自分たちの地域について深く関わり、知り、地域を再発見する学びにつなげる。

3 本実践の概要

本実践は、11回の活動を通して行った。(12回目は、一斉休業のため中止)。

計画

日程	目標	内容案
① 12/17	校区にある文禄堤について知る。	守口門真歴史協議会の方をゲストに招き、文禄堤の保全に向けてのとりくみと携わる人について知る。
② 12/18	活動の内容、見通しの共有	1、活動内容の見通しを確認する。 2、文禄堤の知識、前時の感想の共有をする。 3、冬休みに考える内容を整理する。(何をテーマに据えるか、下調べをするか等)
③ 1/24	新聞づくりに携わる人からポイントを学ぼう。	新聞づくりのプロセス、ポイントを記者の方から学び、自分の新聞づくりの活動のイメージを固める。
④ 1/27	取材の仕方を調べよう	資料を使って取材の仕方を整理する。
⑤ 1/28	取材の準備をしよう	1、取材内容を考える。 2、取材の時の役割分担をする。
⑥ 1/29	取材交渉をしよう	チームのテーマに沿った新聞を作るための取材を行うための交渉をする。 例(この事を知りたい、探りたい) (この場所に行きたい)
⑦ 2/3	取材をしよう	文禄堤の取材を行う。
⑧ 2/6		
⑨ 2/10	チームで新聞をまとめよう。	チームで新聞をまとめる。
⑩ 2/17		
⑪ 2/26	保護者に発表しよう	新聞を保護者に発表する。
⑫ 中止 (一斉休業のため)	まとめよう	・発表の反応や地域で発信した新聞のコメントを集約、共有し、チームでふりかえりを行う。

資料1 実践計画

①の活動では「文禄堤」についての認識をさらに深めるために、文禄堤の保全に向けてのとりくみに携わる守口門真歴史協議会の方を招き、「文禄堤」の保全活動と歴史について学習した。

その後②の活動でそれぞれが、どのような点に興味を持ったかを共有し、新聞づくりのグループ分けを行った。

③の活動では、読売新聞大阪本社の伊東広路記者による出前授業にて取材の方法について学んだ。

④の活動では、ワークシートとして配布していた「記者ノート」を中心に取材についての自分の考えを紙に書き出していった。

記者ノート  守口市立守口小学校 年 組 名前:()	新聞づくりの進め方 テーマを決める ・伝えたい人(友だちや、地域の人)に何を伝えたいのか。 ・どんな記事を取り上げるか。 ・取材方法をどうするか。 ・紙面のレイアウトをどうするか。 ・担当者をどうするか。 取材について 誰やどこ、何を取材するのか。	テーマを決める 何をテーマに新聞を作るか テーマの例 文禄堤を中心とした ・歴史、今の活動、保存状況 - 情報、くらし、観光、まちづくり - 淀川の関係、道の整備など 自分たちのテーマ 『 』 なぜそれをテーマにするのか 『 』	取材について① だれに取材をするのか。 どこを取材するのか。 だれに協力してもらうのか。	取材について② 何を調べたり聞くのか。 どんな写真や資料がいるのか。 何を持っていくのか。
--	--	--	--	---

資料2 取材に向けて児童に配布した「記者ノート」

テーマを決める	取材について①	取材について②
何をテーマに新聞を作るか テーマの例 文禄堤を中心とした ・歴史、今の活動、保存状況 情報、くらし、観光、まちづくり 淀川の関係、道の整備など 自分たちのテーマ 『 <u>竜田通の歴史</u> 』 なぜそれをテーマにするのか 『 <u>守口市のことを知ってもらいたかった</u> 』	だれに取材をするのか。 菊田さん どこを取材するのか。 菊田家～竜田通～ だれに協力してもらうのか。 先生、加藤さん	何を調べたり聞くのか。 歴史、文化、名物、なぜできたか、 どのようにつくられたのか、などの 昔の竜田通の（わい）みだけがしてて こと。 どんな写真や資料があるのか。 昔の竜田通の写真と今と同じ場所での いた写真、産物などの写真や 資料 何を持っていくのか。 カメラ、ボールペン、記者ノート

資料3 ④の活動において児童が実際に記入した「記者ノート」

⑤の活動では、④で個々で考えた事を「取材準備シート」と付箋を用い、新聞のテーマを出しあい、それを元に取り対象と記事の主題、取材先を整理し、まとめる事で見通しを立てられるようにした。

取材準備シート (組 チーム)

テーマ (伝えたいこと、自分が知りたいこと、気になっていることなど)

だれにきく? どんなことを記事にする? どこへいく?

資料4 「取材準備シート」と付箋で考えを出し合った「取材準備シート」

⑥では、取材対象の方に取材したい目的と日程を伝え、取材交渉を行った。その際に取材時の撮影係、記録係の役割分担も行った。またインタビューをする係の児童については、インタビューする内容をメモに書き出していくなどした。

⑦、⑧の活動では、それぞれの役割分担の元に実際に地域の方を訪問し、そこでインタビューを行った。取材当初は「インタビューメモ」を用いて、取材をしていく姿が見られたが、段々と話を聞く中で事前に用意した以外の質問も出すなどし、追究する姿も見られた。また「取材メモ」についても、二重線での訂正や記号を用いるなど③の際に学んだメモの書き方の留意点を活かしながら書く姿が見られた。

インタビュー準備メモ

(最低30問は、準備しよう)

1. 東京に現存建物は何件か。 16. 今と昔で変わっていないと。
2. バルトはどのくらいどこにわかつたか。 17. 昔が良かったのか。
3. 文様堤ははたれたか。 18. 西田さんが前からお気に入り場所か。
4. 昔の音は(SLや笛) 19. 元々どんな素材の建ちたか。
5. 文様堤の音の味さ何となく 20. 文様堤の管理人さんは変わっているか。
6. 何故のまにしているのか。 21. 昔はどきどきとに行き来たか。
7. 何年前につづいたのか。 22. 今は他所土地が買われて、昔はどうか。
8. 何の目的でつくったのか。 23. 今と昔で道を交えたのか。
9. 新しく増えた建物は何件あるか。 24. なぜつづき曲がまわっているのか。
10. 文様堤の今と昔の高さ(何m) 25. 石たたみは昔はあったのか。
11. // (何m) 26. 昔の文様堤の敷居はあったか。
12. 昔の記録があるか(年表) 27. できればつづき見たのか。
13. // 写真があるか。 28. // 何か新発見か。
14. // 映像 29. 昔の文様堤に住んでいた人がいたのか。
15. 今と昔で一番大きく変わったところ。 30. 誰と決まっていたか。

FREE (自由なスペース)

取材メモ

取材した内容は正確にメモしよう。
とくに人や物の名前、地名などや、年月日などは
まちがえないように記録しよう。
字については、相手の人にこれであっていますか。」
と聞いて確認するのもいい。

11日 日 ころしやがたなわつた
机の下にかくあるのにおどろい
ころしやがた おおる せんぜん 生計に
げるといった
思てたおれないうちに金失つてになつた
せんぞがやい事とておどろき せんぞが せんぞといふ
300-400年かろせんぞが せんぞといふ
でこほつた逆の 木質の木のさかい
屋ろ
ごふく家という事 せんぞが
答はせんぞが せんぞなどをしてい
たせんぞが 有名
なつてつけという せんぞが せんぞ
でせんぞが せんぞの時にせんぞ
X 用はせんぞ
せんぞのせんぞにせんぞにせんぞ
せんぞのせんぞにせんぞにせんぞ

取材メモ

取材した内容は正確にメモしよう。
どこにや物の名前、地名などや、年月日などは
まちがえないように記録しよう
字については、相手の人にこれであっていますか。」
と聞いて確認するのでもいいですね。

昔々今のところのつうの地かなとこうまじかなのなでい
女の産品ナ細い大根さやけもの、
なぐさうのり、
なかでまた理由→天下が、
大阪と奈良をぶぎだめ、
作ろうとひたひたがあるの、
それからの女の思ひ→大事にしたいな、
宇治学校は重宝ゆかりの地、
舞う→ちがう場所にいる今の宇治学校、

資料 6 取材の際の「取材メモ」

資料5 「インタビュー準備メモ」

⑨、⑩の活動では、取材内容に基づいて実際の「新聞づくり」にとりくんだ。「記者ノート」を元に紙面をまとめていく際、見出しや段組、記述をどのようにするかを検討する姿が見られた。またこの際に実際のレイアウトを確認するために、実際の新聞を見比べる児童もいた。



資料 7 完成した新聞

⑪の活動では、実際に作った新聞を印刷し、参観に来た保護者に配布し、またこれまでの新聞づくりの過程についても発表した。保護者からも「知らない事が知れてよかった。」といった感想があった。

この後⑫の活動にて、地域に自分たちの新聞を配り、感想を聞きまとめようとしたが、学校の一斉休業のため行う事ができなかった。そのため印刷した400部を地域の方に託し配達してもらうことにした。

3 成果と課題

成果について

- ①「新聞づくり」という課題がある事で「地域に発信していく」という目的を全活動を通じてチーム内で共有し続ける事ができた。
- ②専門家の力も借り、ていねいに「新聞づくり」の方法を伝えることで、今まで社会科等で行われてきた学習のまとめとしてのみの「新聞づくり」から脱却し、「新聞」のメディアとしての特徴を理解することにつながった。
- ③取材活動を通じることで、「文禄堤」を中心として地域の歴史、地域の方の思いや願いについて「教えてもらう。」から自ら「再発見する。」ことにつながる事が一定できた。それにより「文禄堤」に対して自分なりの価値づけができ、それを伝えようとする姿勢が作成した新聞から読み取れた。この点から、地域との関わりが、「自分の人生や社会に生かそうとする資質・能力」の育成に一定つながったといえる。

課題について

- ①保全活動に取り組む人を中心に取材したため、多様な意見や考えを集められたかという観点からは、疑問が残る。今後は行政に携わる人や地域に住む方への取材等も設定する必要がある。
- ②保護者に向けて発表する機会は、あったが地域住民へ発表する機会は、設けられなかった。また児童が直接配達したわけではないため、読者の感想を得る機会が無かった。読者の感想を得る手段を構築する必要がある。
- ③発表が活動の終末になり、その後の自分たちが伝えたい事を提言するまで至らなかった。この点については、発表だけでなく、児童自身が自身の作ったメディアである新聞を活かし、地域に提言する機会が必要がある。
- ④取材を中心に行った「新聞づくり」のため書籍や他の資料による記述があまり見られなかった。人や場所への取材活動のみでなく、書籍や資料をもとに行う取材活動の機会も設定する必要がある。

[註]

- 1 文部科学省(2017)総則. 小学校学習指導要領解説 総則編
- 2 木下百合子・手取義宏編著『総合学習時代の授業論』ミネルヴァ書房, 2002年, p163